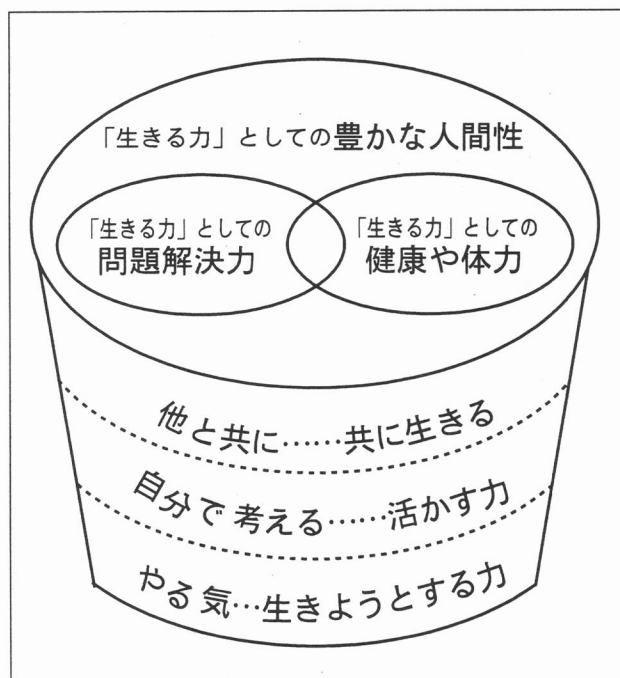


体力」を育む場合の「生きようとする力」「活かす力」「共に生きる力」と同じことであると考え。

つまり、「生きる力」としての「学力」を育てる場合、子ども一人一人の「やる気」や「自分で考えること」、「他と共にということ」が大事だというであり、学校の全教育活動を通して育成すべき「生きる力」としての「学力」、すなわち「生きる目標（生きようとする力）」、「自己を改革する力（活かす力）」、そして、「自己実現する力（共に生きる力）」にもあてはまるものであると考えることができる。

これらをまとめると次のようになる。



「生きる力」並びに「『生きる力』としての『学力』」を、私たちは以上のように捉え、サブ・テーマとして掲げた「小・中・高における授業の改造」へ向けての方策について考察する。

## 2 授業の改造

サブ・テーマの「小・中・高における授業の改造」は、学校の教育内容・活動の中心である授業の改造によって、「生きる力」としての「学力」を育てるための提言をしようとするものである。

「生きる力」は、授業という限られた教育内容や方法によって育まれるものではないが、この研究では、特に、「生きる力」を育むための「授業」の在り方を探り、その提案を切り口にして「『生きる力』としての『学力』を育てる学校教育の創造」という研究課題に迫ろうとするものである。

この研究では、授業の改造を次の4つの視点から明らかにしようとしている。

教師の改造 教材の改造 学級の改造 授業の改造

### (1) 教師の改造

授業の改造を具現しようとするとき、まず、その改造の直接の担い手である、教師の意識や資質、能力等を考えなければならない。

研究課題の「『生きる力』としての『学力』を育てる学校教育の創造」を目指した「授業の改造」は教師の意識改革なしには推進することができない。

特に、「『生きる力』としての『問題解決力』」など、社会の変化に的確かつ迅速に対応できるような能力を育てるための学校像や教師像に関する意識の改革は重要である。また、これまでの授業に厳しい反省を加え、授業を改造していくためには、実際に授業を行う教師一人一人の、教員としての資質や指導力を充実させなければならないという基本的な課題がある。そのために、教員研修は今後一層重視されなければならない。研修意欲の活性化や校内研修の内容の充実、あるいは研修時間の確保の問題など、教員研修に関する課題は多い。これら、教員研修に関する課題の究明は、そのまま教員の意識改革や資質・指導力の向上につながり、学校の活性化を促進することになると考える。

つまり、授業の改造は、こうした教師の意識改革や資質・能力の向上を目指した教員研修の改造に支えられて、はじめて実現できるものである。